市政特集 松山の未来予想図

～「にぎわい」「歩いて暮らせる」「コンパクトシティ」で幸せ実感～

未来を見据えた魅力あるまちづくりを目指し、都市機能を高めるさまざまな事業が進められています。

道後温泉地区

道後温泉活性化計画を策定 椿の湯新施設を整備

外湯文化を受け継ぐ「おもてなしの環」で百年輝き続ける道後へ

冠山から道後温泉本館を望む

道後温泉地区が育んできたおもてなしの心で、道後特有の外湯文化に代表される風情や伝統を継承・発展させ、これから百年先まで輝き続ける「新たな道後のまち」を目指します。

地区全体を「環」で結び回遊性のある空間を創出

次世代に誇れる道後温泉を継承・発展させるため、『道後温泉活性化計画』と『魅力向上・賑わい創りの総合的な対策』を策定。「風景・交通・時間・にぎわい・つながり」をテーマに、道後温泉本館・冠山を中心に旅館・ホテル街、上人坂、伊佐爾波神社、道後公園、商店街、椿の湯、松山神社、石手寺といった個性豊かなエリアを「環」のように複合的に結びつけ、地区全体の魅力を高めることを盛り込んでいます。

上人坂整備イメージ

特に椿の湯、本館・冠山、上人坂の周辺を重点整備エリアと位置付け、回遊性のある空間創出につなげます。また駐輪場、駐車場整備による交通結節点の改善や民間開発事業を誘導し、歩きたくなる空間づくりを目指します。

平成27年度から道後温泉本館130周年を迎える平成36年度までの10カ年計画で進める予定です。

飛鳥時代をイメージ 椿の湯 新湯

聖徳太子来湯伝説や斉明天皇の行幸などの歴史から、飛鳥時代の湯屋を再現します。地元まちづくり団体の提案や道後温泉活性化計画審議会の推薦、さらには建築界のトップランナーでこれまで本市中心部や道後のまちづくりに関わられた建築家・内藤廣さんのアドバイスなどを受けながら、飛鳥時代の象徴的なデザインをイメージしています。

椿の湯整備イメージ

椿の湯　新湯イメージ

1階には男女それぞれ定員50人の浴槽と露天風呂を設置し、本館とは異なる解放的な浴室を演出。2階は本館でも人気の高い畳敷きの休憩室として約60畳の大広間と5つの個室を設け、湯上がりの給茶サービスや縁側から中庭を眺めて楽しめる空間を設けます。

お問い合わせは、道後温泉事務所☎921-6161・FAX934-3415へ

一番町大街道口

アーケードリニューアル 再開発ビルオープン

人々が集い、にぎわう活気あふれる中心市街地に

整備が進む一番町大街道口（7月10日撮影）

松山の中心市街地の「顔」ともいえる一番町大街道口では、平成25年3月に策定した「市中心地区市街地総合再生基本計画」で重要な拠点空間として位置付け、中心市街地活性化のため、行政と民間企業、商店街が協力して整備を進めています。

アーケードをリニューアル 憩いの空間を演出

にぎわいの「核」を創出し、南北の歩行者動線をつなげ、人の流れを周辺へ広げるため、アーケードと路面の景観整備を進めています。市が主体となって、自然石を用いた歩道舗装や照明柱、シンボルツリー、ベンチを設置しているほか、国も車道のカラー舗装を行い、交差点の一体感を演出しました。さらに松山大街道商店街振興組合が、築30年以上経過したアーケードのリニューアルを実施。これまでのアーケードを一部撤去し開放的な空間を設け、洗練されたおしゃれなデザインになりました。

AEL MATSUYAMA（7月8日撮影）

人々の待ち合わせ場所となる〝憩いの空間〟を創出し、活気あふれる中心市街地に生まれ変わることを期待しています。

AEL MATSUYAMA、8月26日開業

ラフォーレ原宿・松山跡地の再開発ビル「AEL MATSUYAMA（アエル松山）」のオープンが間近に迫っています。

AELは、「新しい未来に『会える』喜びを届ける場所」をコンセプトにした、地上13階建て、ホテル、ブライダル、商業施設で構成される複合施設になります。西日本や四国初出店となるテナントや新業態の店舗もそろい、地域経済活性化の起爆剤として期待されます。

お問い合わせは、都市デザイン課☎948-6466・FAX934-1807へ

松山駅周辺

鉄道高架化と周辺整備で生まれ変わる陸の玄関口

「集客」と「集住」そして公共交通機関の利便性向上

JR松山駅整備イメージ

JR松山駅周辺は、JR予讃線により市街地が東西に分断され、交通渋滞や踏切事故の発生など市民の安全・安心や市街地の均衡ある発展が阻害されており、これらの解消が長年の課題でした。

そこで、このような問題を解決し、魅力ある都市環境の創出を目的に「松山駅周辺整備事業」として、県による鉄道高架事業をはじめ、市による土地区画整理事業や街路整備を、関係事業者などと連携して進めています。

高架化で路面電車を西伸

路面電車を駅前広場に引き込み、さらに松山総合公園近くまで約700メートル延伸させ公共交通の利用拡大を図るとともに、JR予讃線西側のまちづくりに生かします。

車両基地跡地の利用

伊予市、松前町への新車両基地・貨物駅移転後の跡地の活用について、市民や学識経験者の意見をもとに平成27年5月、「松山駅周辺地区車両基地跡地利用に関する基本構想」を策定しました。

今後この構想をもとに、市民をはじめ学識経験者などから引き続き意見をいただきながら、基本理念である情報文化交流拠点として整備を行います。

宅地造成、公共施設の整備

土地区画整理事業では平成24年3月にJR・市を除く一般の地権者の移転先を示す仮換地指定を行い、宅地造成、公共施設の整備を進めています。「集客」と「集住」、そして公共交通機関の利便性向上で歩いて暮らせる「コンパクトシティ」をコンセプトに、県都の陸の玄関口にふさわしいまちづくりに取り組みます。

お問い合わせは、松山駅周辺整備課☎948-6508・FAX934-1807へ

花園町通り

道路空間を見直し 歩行空間とにぎわい空間を創出

にぎわいと交流を育む歩行空間「広場街路」

花園町通り整備イメージ

堀之内と松山市駅を結ぶ花園町通りは市内最大の道路幅員があり、城山や堀之内の景観を望める市民の宝です。本市では花園町通りを「歩いて暮らせるまち松山」のシンボルロードとして位置付け、安全・快適な歩行空間の形成やにぎわい創出などに取り組んでいます。

安全な街路空間の確保

片側2車線の車道を1車線に縮小し、それによって生まれた空間を自転車や歩行者に再配分することで、安全で人にやさしい街路空間を創出します。また歩くことによる市民の健康増進にもつなげていきます。

歩行空間ににぎわいを創出

歩行空間を、子規の生誕碑などの地域資源を生かすなどして、人々が滞留する憩いの場やイベントスペースとして活用し、にぎわいや地域交流の場を創出します。またイベントで使用できるよう、電源や給排水設備も整備します。

シンボルロードにふさわしい景観整備

電線類の地中化や歩道の石張り舗装、自転車道や交差点周辺の景観に配慮した舗装整備など、花園町通りの東西一体的な景観整備を行い、まちの一体感を創出します。

また花園町東通りでは、沿道の良好な街並み形成を目的に、地元商店街が実施する建物の壁面景観整備（ファサード整備）に対し支援を行います。

ファサード整備では、地域が定めたデザインガイドラインに基づき、外壁改修や統一的な看板・テントの設置などを行います。

現在進めている電線地中化工事は、西側が間もなく終了し、その後東側の工事に着手します。そして来年春以降から道路見直しの工事に取り掛かる予定です。東通りのファサード整備も今年度から着手する予定です。

花園町通りでのにぎわいイベント

お問い合わせは、道路建設課☎948-6476・FAX934-8051へ

かつひトーク㉒

伊佐庭如矢さんが百年先を見据えて道後温泉本館を今の姿に改築して120年。現在道後温泉は多くの人が訪れ、松山のかけがえのない宝となっています。

今、松山では市内各地で将来に向けたさまざまな事業を進めています。一番町ではラフォーレ原宿・松山閉店後、中心市街地の空洞化が懸念されていましたが、民間事業者など関係者への働きかけが実を結び、再開発ビル（アエル松山）がオープンします。今後、その他の地域も目に見える形で変わっていきます。

こうした取り組みは今後迎える人口減少、高齢化社会などといった課題へのチャレンジでもあります。都市機能を集約させ、公共交通の利用を促進し、歩いて暮らせる「コンパクトシティ」を構築することで、百年先を見据え、市民の皆さんとともにこれらの事業に全力で取り組んでまいります。

百年先を見据えたまちづくり

松山市長　野志克仁